

平成 25 年 産業経済委員会 12 月 13 日

◆帆苺謙治委員 簡単に質問しますので、要領よく簡単に答弁をお願いしたいと思います。

今、佐藤浩雄委員からお話でしたが、国による経営所得安定対策についてです。我々が子供のころは、ご飯を1世帯で1日2升食べていました。今、年間一人当たりの米の消費量は60キログラム、1俵を切ったという話も聞いておりますし、ましてや年寄りが大勢になってきて、飯も食わなくなったし、そうなれば半分になるのは当然だろうと。それならば今の農地が半分強あればいいのかという思いもしております。ただ、国の政策として、減反政策を執ってきたり、あるいは今度は飼料用米を作るということで、いろいろなかたがたと相談し、学者等ともいろいろな意見を聞きながら、その対応をしてきたと。あるいは、新潟県の提言に対しても、真摯（しんし）に農林水産省は受け止めてやってきたという経緯があるわけでございまして、今回はベストではないかもしれないけれども、今現在はしょうがないのかなという思いもしております。日本も先進国ではございますが、ほかのアメリカや欧州あたりの先進国と比べると、農家に対する補助と申しますか、投資と申しますか、そういうものが少ないということも聞いておりますし、農業は1次産業でありますから、必ず守っていかなければならない。こういうことからすると、短絡的かもしれないけれども、これがもし、おかしな段階になったとしても、あるいは米価が下がったとしても、やはり国として農を守るのだということからすれば、ある学者と申しますか先生も言うておられますけれども、それだけの補てんをしなければ、日本はもたないのだという基本的な考えがあるから心配するなという話もございます。

それはそれとして、今度は、飼料用米を作ると、その飼料用米をどこに売っていくのかという問題もあるわけでございます。そうすると、当然、畜産の問題が出てくると思うのです。今、アメリカのシカゴでしょうか、とうもろこしの価格もある程度、安定してきたという話も聞いておりますし、畜産農家からすれば最低限、それよりも安くしないと売れないということだと思えます。当然、そういう施策は執っているのでしょう。それにプラスして、畜産課長から聞いたら、破碎機が要るとか何とかという話が出ているのです。そのまますぐ食べさせるわけにいかないから、破碎機等の補助も考えていかなければ、コスト高になってしまうということですが、国も考えているのだろうけれども、そういう対応等は新潟県として先を見越して考えていますか。

◎石田司畜産課長 畜産農家が飼料用米を有効的に使うための支援ということでございます。通常、飼料用米は、最終的には飼料工場に行きまして、配合飼料になって使われるわけですが、それよりも地域内で流通させれば、まず畜産農家には、さらに安く手に入るという構図が例としてもございます。そのためには、自分たちで破碎機なり、混合機なりが必要ということになってきますけれども、それらにつきましては、これまでも農林県単事業で補助もしておりますし、これからもそのような支援を継続することによって、畜産農家に

メリットがあり、安く飼料用米が使える方向に持っていきたいと考えております。

◆帆苺謙治委員 今までも県単の事業があると言われましたけれども、やはり近くで取って近くで消費すれば安いに決まっているのであって、そういうことからすれば、とうもろこしに比べて安くなるような方策を新潟県として、あるいは国の補助事業であるならば、そういう要望をして、畜産農家のために頑張ってもらいたいというお願いと提言でございます。

それから、畜産課長を褒めるわけではないけれども、ソフト事業については、今年、本当にいい方策を執ってもらいましたし、畜産農家が昨年あたりから、少し持ち直していますけれども、飼料の高騰等で難儀をしてきた中であって、新しい導入に補助金をつけていただいて、本当にカンフル剤になったという団体からの賛美の声が上がっているものですから、これからもぜひ検討して、できれば継続していただきたいということが、我々の希望でもございますので、よろしく申し上げます。

次に、越後姫とか、ルレクチエとか、黒埼茶豆とか、新潟県が推奨している野菜、あるいは果樹がございますが、端的に言えば、幻の新潟のおいしいもので終わるのか、あるいは量産といたしますか、ある程度、流通経路に乗って、多く生産して売っていくのか。めりはりが必要だと思うのです。今、越乃寒梅も出回りすぎているようなきらいがございますけれども、亀の翁といった酒であれば、非常に手に入らないものだから売れると。寒ブリだってそうです。議長のところの佐渡寒ブリだって、氷見の寒ブリとあまり変わらないと思うのですけれども、氷見の寒ブリの価格は3倍も4倍もする。氷見はブリしゃぶで売ったのです。そういうことからすると、なぜそうなるのかと。一方で、越後姫とか、ルレクチエとか、ブランド品だからという裏腹の考えもございますけれども、そういうことからすると本当にいいものは高く売るといことがスタンスとしてあるのだろうけれども、そういう幻のものにしていくのか、量産するのか。その辺、これは商売だから、価格の変動もあるし、商売する人、生産する人の考えもあるのだろうけれども、ひとつそういう生産者といろいろな話をしながら、どの方向に行くのかということも位置づけていただきたい。していないわけではないのだろうと。例えば、越後姫については、だんだん大きくなっているし、これはいいことだなと思っています。ですから、それらも踏まえて、その方向性といえますか、今後、どうしていくのかということがありましたらお願いします。

◎小幡武志農産園芸課長 園芸の越後姫などのにいがたフード・ブランド品目の対応についてでございますけれども、こういったにいがたフード・ブランド品目は、首都圏における県産農産物のイメージリーダーになるようにということで、新潟ブランドを引っ張る品物ということで位置づけて、推進しているところでございます。当然のことながら、幻では評価が広がらないわけでございますから、東京都内でトップシェアを取るとか、そういうことではないのですけれども、ブランド化には一定の生産量、シェアが必要だと思っておりますので、生産拡大を進めるという方向でやっております。

◆帆苺謙治委員 今、施設に対して、けっこう支援はしていますし、今後、せっかくやったのだから中途はんばにしないで、継続して越後姫であれば越後姫を売り出すような、阿賀野市でも生産農家が6軒あって協力体制を作っているようでありますので、ぜひ推進していただきたいとお願いしておきます。

それと、関東に大きな地震が来るとか、南海トラフ地震と一緒に来たらどうなるのだという話がございます。そうすると、新潟県にいい交通網があるものだから、こちらに逃げてくるという話がございます。そうすると、新潟は食料基地として非常に重要になってくる。こういうことからすると、食料を備蓄する冷凍庫がないという話を聞きました。石油の備蓄でもそうだし、エネルギーもそうでありますけれども、食料については東京周辺、あるいは仙台といったところから比べると、がくっと落ちるのです。そして、冷凍庫がないものだから、結局、新潟の港はハブ港的な食料基地にはなりえないということをよく指摘されるのです。それは商売をする人がやるべきものかもしれませんが、県の誘導といいますか、そういう対応について考えたことがあるのか、考えていただきたいというのが趣旨です。

例を言えば、ノルウェー産のすじことか、いくらとかを競る場所というのは韓国にあるのだそうです。そして、それを買っていく人間というのは、日本人が8割から9割を占めるのだと。流通経路がそうなっているのだそうです。なぜ日本の新潟ではないのかと、私は非常に疑問に思います。経済効果からすると、例えば、バイヤーといいますか、仲買人といいますか、そういう会社関係が100社あるとすれば、3人行けば300人です。そういう人間が港の近くのホテルに泊まったとしたら、それだけ別な意味での経済効果も出る。こういうことからすると、どちらの方面でもよくなるなという思いがするのですが、冷凍庫とか、そういうものについて、どうすれば新潟で増えていくのか。こういうものも水産関係の団体と意見交換して、そういう意見を吸い上げる必要があるのではないかという思いがするのですが、今までどういうことをしてきたのか、あるいはやる気があるのか、やる気がないのか、少し聞かせてください。

◎藤田利昭水産課長 本県の冷凍冷蔵庫が不足しているのではないかとということでございますが、今年度、流通、加工、それから漁業者の関係団体と水産物流通の拠点化に向けて水産物流通拠点化検討委員会を開催しております。この委員会の中でも、特に新潟市内において、急速凍結庫、それから冷凍庫などの施設が不足しているということは指摘されております。これを受けまして、この委員会の中で、引き続き、対応を検討しているところでございます。

◆帆苺謙治委員 遅きに失しているわけではございませんので、しっかりとそれを受けていく。冷凍庫を持っている、あるいは加工機械を持っているということで、小魚でもできるということになるならば、漁業者も少しは高く売れるのだろうし、そういうことをきちんとやってもらいたいと思っております。仲買人が右と左を向いてけんかしているような側面

も見受けられますけれども、間に農林水産部が立って、新潟県全体、あるいは日本のことを考える食料基地にしていくということをお願いしたいと思っております。私が産業経済委員会にいる限りは、その都度、進捗（しんちよく）度合いを聞きますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

最後ですけれども、ふるさと越後の家づくり事業ということで、今年補正もしていただいたり、非常によかったと思っております。ただ、9月定例会で佐藤浩雄委員も言っていたけれども、やはり9月にある程度、打ち止めになっている。これは消費増税の関係だと思ひますけれども、これらを踏まえて、来年、あるいは消費税率が10パーセントになったとき、これらの越後杉の売り込みはどういったものをお考えですか。

◎古川洋次林政課長 越後杉におけます消費増税に伴う影響ということですが、民間のシンクタンクの住宅着工の予測を調べさせていただきましたが、今のところ国により給付金等の平準化措置が講じられるということでもあります。ただ、駆け込み需要の反動減という部分も考えられますが、影響は小さいだろうということもございます。県といたしましては、越後杉住宅の建設支援、これまで整備しましたストックヤードといったものを活用いたしまして、体制強化などを図りながら、越後杉の需要拡大に向けて取組を強化してまいりたいと思っております。

◆帆苺謙治委員 先日、林業の皆さんとで超党派の会議をしましたが、秋田杉より新潟の越後杉が高いというようなこともございました。その原因たるや何かということになると、林道が確保されていないのではないかと、いろいろな要素があると思うのですが、コスト高になる要素というのは何だと思ひますか。

◎古川洋次林政課長 越後杉がコスト高になるということの原因でございます。越後杉の単価等を調べさせていただきましたが、一般に出回っております土木資材等の流通調査等の標準的な単価と比較させていただきますと、本県を含む北陸地方や関東北部の地域で流通している単価と、新潟県は大体同じになっております。一方、九州ですとか、四国と比べると、少し割高になっているという状況でございます。これは、製造業者ですとか、流通経路といった違いによって異なっているのではないかと認識しておりますけれども、当県におきましては、比較的小規模の製材工場が多くて、稼働率が低いということがコスト高になっている一因ではないかと考えております。県としましては、製材工場の稼働率を上げるとともに、先ほども申しましたけれども、ストックヤードの整備などを支援してきており、他県産材と比較すると、標準単価では若干高い傾向にありますけれども、一部、そういったストックヤードを整備している工場につきましては、競争力がついて、九州材、それから四国材に遜色（そんしょく）ない単価で出ているという状況でございます。

◆帆苺謙治委員 スtockヤードについては、私も再三、言わせていただいたけれども、その補助が実ったという面もあると思います。ただ、小規模だからということも分かりますけれども、肝心の林道整備の進捗状況はどうか。あるいは、今どの程度やって、将来どうやっていくのか。一時、林道整備はものすごくセーブしていると、無駄な事業だと、費用対効果から見ればとんでもないみたいな話ばかり出てきたことがございましたが、そういうことからすれば、林道整備も、価格がよそより安くなるための要素として必要だと思うのですけれども、その辺を教えてください。

◎古川洋次林政課長 木材を搬出する林道、作業道といった路網整備については、非常に重要なことと位置づけておまして、これから高性能機械を導入して、より一層コストの縮減を図っていかなければ、他県産材との競争力が弱まってくるという状況でございますので、私どもとしてもそういったところに力を入れているところです。

林道の整備状況ですけれども、林道整備については、路網密度の全国平均が1ヘクタール当たり大体17メートルでございます。新潟県もほとんど同じようなレベルということですが、ただ、それは地域によって異なってきますので、地域によっては路網密度の高いところ、あるいは低いところがございますけれども、おしなべて見ると全国平均並みという形になっております。私どもとしても、今、森林整備加速化・林業再生事業等で作業路を整備しておりますので、そういった事業を導入しながら、今後一層、路網密度を高めていきたいと考えています。

◆帆苺謙治委員 ぜひ、予算確保を図っていただいて、全国並みなどと言わないで全国より少しでも上に行くということで努力していただきたいと、お願い申し上げます。